

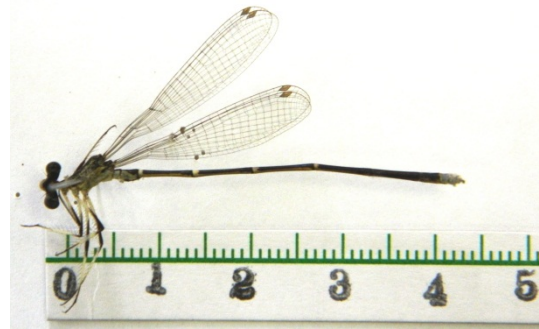
4. 昆虫調査

トンボ類



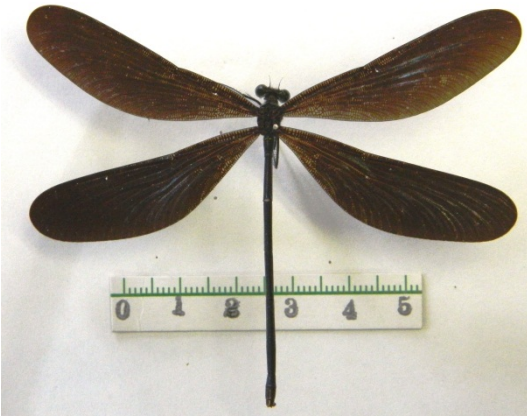
キイトンボ (イトトンボ科)

根小屋 2013. 7. 11



モノサシトンボ (モノサシトンボ科)

中家 2013. 7. 23



ハグロトンボ (カワトンボ科)

中家 2013. 9. 20



カワトンボ (カワトンボ科)

根小屋 2013. 6. 14



ギンヤンマ (ヤンマ科)

原虫野 2013. 9. 28



クロスジギンヤンマ (ヤンマ科)

中家 2013. 9. 20



ハラビロトンボ (トンボ科)
原虫野 2013. 5. 23



シオカラトンボ (トンボ科)
根小屋 2013. 7. 27



ショウジョウトンボ (トンボ科)
原虫野 2013. 9. 28



ヨツボシトンボ (トンボ科)
根小屋 2013. 6. 14



ウスバキトンボ (トンボ科)
中家 2013. 9. 27



チョウトンボ (トンボ科)
根小屋 2013. 7. 11

チョウ類



キアゲハ (アゲハチョウ科)
中家 2013. 9. 22



ミヤマカラスアゲハ (アゲハチョウ科)
長瀬沢 2013. 8. 6



スジグロシロチョウ (シロチョウ科)
根小屋 2013. 9. 21



モンキチョウ (シロチョウ科)
根小屋 2013. 7. 27



ウラギンヒヨウモン (タテハチョウ科)
根小屋 2013. 6. 23



イチモンジチョウ (タテハチョウ科)
長瀬沢 2013. 8. 6



アカタテハ (タテハチョウ科)

根小屋 2013. 10. 28



ゴマダラチョウ (タテハチョウ科)

根小屋 2013. 7. 27



アサギマダラ (タテハチョウ科)

根小屋 2013. 10. 28



ヒメウラナミジャノメ (ジャノメチョウ科)

中家 2013. 8. 11



ベニシジミ (シジミチョウ科)

根小屋 2013. 9. 21



コチャバネセセリ (セセリチョウ科)

根小屋 2013. 8. 10

1) 調査目的・背景

越後三山、守門岳・浅草岳、魚沼丘陵に囲まれている魚沼市は、その山々の雪解水が破間川・和田川・羽根川・佐梨川、そして魚野川に注ぎ、その水を利用した水田が山麓から市街地にかけて広がり、様々な自然環境に多種多様な生物が生息するなど、自然豊かなところである。

2011年度に、魚沼市自然環境保全事業のひとつとして魚沼市の植物相調査が実施された。その調査活動の中で、植物と共生している昆虫の調査の必要性が話題となり、2012年度から昆虫調査も開始され、トンボ相を中心に調査を行った。

2013年度は、市民にも馴染みの深いトンボ類とチョウ類にスポットをあて、生息状況やその環境の把握を行った。これらの調査結果資料を今後の環境保全事業に役立てていきたい。

2) 調査地域の位置

本年度の調査は、堀之内地区の奥只見レクリエーション都市公園の根小屋花と緑と雪の里（以下、根小屋花と緑と雪の里。）、広神地区の中家、小出地区の原虫野、湯之谷地区の長瀬沢の4か所で行った。

(1) 根小屋花と緑と雪の里と道路脇旧養鯉池

根小屋花と緑と雪の里は旧堀之内町に位置し、2001年に造成が始まり、2003年に公園の中に「トンボの池」が完成した。トンボ類はその4つの池を中心に、チョウ類は池の周辺と公園の中を中心に調査した。

旧大平牧場に行く道路脇には、大小20か所前後の養鯉池がある。その中で、現在使われていない道路脇の養鯉池でトンボ類の調査を行った。

(2) 広神地区中家の養鯉池

中家集落の山麓に、沢の水を利用した養鯉池が6つ段々上に連なっている場所がある。現在は、下2つの大きな池が養鯉池として使われている。トンボ類は、養鯉池を中心に調査し、チョウ類は池周辺と水田、民家周辺を調査した。

(3) 小出地区原虫野

小出地区原虫野は、段丘崖とその周辺には湿地と小さな池、休耕田が広がっている。湿

地とそこに流れる小川周辺にミズバショウの群生地があり、段丘崖にはザゼンソウの群生地がある貴重な場所である。トンボ類は湿地の中の小さな池とその周辺を、チョウについては段丘崖から湿地帯、休耕田周辺を調査した。

(4) 湯之谷地区長瀬沢

湯之谷地区の長瀬沢は佐梨川の上流に位置し、佐梨川に注いでいる沢の深い川である。川沿いには、奥山のゼンマイ小屋に続く林道がある。この林道沿いで、トンボ類とチョウ類を調査した。

3) 調査方法

今年度の調査は、調査地をトンボとチョウの2班に分かれて採取、同定、標本づくりを行った。調査期間は5月下旬から10月下旬までの月1回、調査時間は8時30分から13時までを基本として、各調査地を5回調査した。

調査員は、調査地区を踏査または定点観察を行い、調査対象であるトンボ類、チョウ類を目視し確認、捕虫網で採取し記録し、その後同定を行い標本を作製した。

各調査地の調査員、調査日、調査回数は以下のとおりである。

(1) 根小屋花と緑と雪の里、道路脇旧養鯉池

トンボ類	調査員：横山正樹	
	6月14日、7月11日、8月15日、9月20日、10月31日	計5回
チョウ類	調査員：川又信彦	
	6月23日、7月27日、8月10日、9月21日、10月28日	計5回
ボランティア延べ参加人数：1人		

(2) 中家養鯉池

トンボ類	調査員：横山正樹	
	6月15日、7月23日、8月16日、9月21日、10月30日	計5回
チョウ類	調査員：川又信彦	
	6月15日、7月28日、8月11日、9月22日、10月28日	計5回
ボランティア延べ参加人数：0人		

(3) 原虫野湿地

トンボ類	調査員：坂大 守	
	5月20日、5月23日、6月8日、9月28日、10月10日	計5回
チョウ類	調査員：井口史男	
	6月8日、7月16日、9月28日、10月10日	計4回

ボランティア延べ参加人数：2人

(4) 長瀬沢林道

トンボ類 調査員：坂大 守

6月1日、8月6日、8月26日、9月19日、10月3日 計5回

チョウ類 調査員：井口史男

6月1日、8月6日、8月26日、9月19日、10月3日 計5回

ボランティア延べ参加人数：8人

4) 調査結果

(1) 調査結果

① トンボ類の調査結果

- ・堀之内地区根小屋花と緑と雪の里公園9科22種・根小屋旧養鯉池6科16種、広神地区中家養鯉池8科25種、小出地区原虫野8科23種、湯之谷地区長瀬沢4科5種を確認した。
- ・5か所の調査結果を合わせると、トンボ類12科39種を確認することができた。

② チョウ類の調査結果

- ・堀之内地区根小屋花と緑と雪の里公園6科27種、広神地区中家養鯉池・民家周辺6科27種、小出地区原虫野6科15種、湯之谷地区長瀬沢6科16種を確認した。
- ・4か所の調査結果を合わせると、チョウ類6科39種を確認することができた。

それぞれの調査結果は、別表目録に記載する。トンボ類目録の科名、種名、学名、並び順は『トンボのすべて 改訂版』（井上清・谷幸三 2003年）、蝶類目録の科名、種名、並び順は、『日本産蝶類分布リスト』（松香 宏隆 2003年）、学名は『日本産蝶類リスト[List of Japanese Butterfly]』（日本蝶類学会）によった。また、参考資料として魚沼市のトンボ相（2013年度調査結果一覧）（表4-1）を掲載した。

(2) 確認された絶滅危惧種

昨年度薬師山周辺で確認したギフチョウは、調査開始時期が5月下旬と遅くなったため各調査地で確認することができなかった。

5) 2013年度昆虫調査の評価と今後の展望

魚沼市自然環境保全調査委員会委員

魚沼昆虫同好会 横山正樹

1 昆虫生息状況の概要

(1) 現在までの調査結果

魚沼市としてのトンボ類の調査は2年目、チョウ類を本格的にはじめたのは今回が初めてである。

旧北魚沼郡時代（「北魚の自然と理科教育」等に記載された調査結果）から昨年度まで、魚沼市に生息し確認、報告されたトンボ類は、12科61種である。今年度は、5か所を調査し、新たに2種を確認、報告することができ、現在の確認種は12科63種となった。

魚沼市の過去におけるチョウ類の詳しい調査結果報告は、確認することができなかった。今年度、2名の調査員がチョウ類を専門に4箇所の調査地を調査し、6科39種のチョウ類を確認したので報告する。

(2) 調査地の自然環境の概要

ア 根小屋花と緑と雪の里、根小屋道路脇旧養鯉池

「根小屋花と緑と雪の里」レク都市公園が平成15年に造成され、公園の一角に流れている沢の水を利用して、大小4つの池が作られている。その水辺に、飛来するトンボが生育できる環境をつくり「トンボの池」が創られた。公園の管理棟を中心には花壇が創られ、春から秋まで色とりどりの花が咲き乱れている。また、管理棟の左側にはシバザクラが植えられ、春の時期にはシバザクラの花が満開になり、市民の憩いの場所として親しまれている。公園の周りは雑木林に囲まれ、時期になると様々な草花が咲いている。

公園脇から根小屋牧場に続く道路脇には、大小20か所前後の養鯉池がある。その中で、現在養鯉池として使われていない池もあり、トンボが生息できる環境がそこにはある。



図4-1 根小屋公園のトンボ池

イ 広神地区中家養鯉池

広神地区の県道三ツ又小出線を中子沢方面に向かい、池平地区に入る手前の農道を左折し山麓に向かっていくと、沢の水を利用して作られた養鯉池がある。この養鯉池は大小6個の池があり、現在は大きな2つの池で錦鯉が飼育されている。池の周りは雑木林、林床内には春になるとカタクリの花が咲き誇っている。水辺の水生植物は貧相で開放面が広い池である。チョウ類が生息するための草花の環境は、休耕田に作られている野菜類と田の畦草、民家周辺の花壇に咲く花である。



図4-2 中家の養鯉池

ウ 小出地区原虫野

原虫野は段丘面にある地区である。段丘崖はスギ林と雑木林、段丘の下の面は湧き水による湿地が広がり、道路を挟んで田んぼが広がっている所である。段丘崖の林床には、春になるとザゼンソウやキクザキイチゲなどの花が咲き、小川や湿地帯にはミズバショウが咲くなど、貴重な植物が分布している場所である。その湿地の中に周囲20m位の小さな池があり、トンボ類が生息できる環境となっている。また、春の草花や田の畦草の花、食草を求めてチョウ類が生息している。



図4-3 原虫野の湿地と池

エ 湯之谷地区長瀬沢

湯之谷地区の長瀬沢は、佐梨川の上流に位置し、その沢沿いには奥山のゼンマイ小屋に続く林道がある。沢は溪流となり、流れは速く、水温は低い等の水辺の環境である。林道の両脇は雑木林に覆われており、草花は少ない環境である。



図4-4 長瀬沢の林道

2 調査結果と注目すべき昆虫

(1) 根小屋公園・道路脇旧養鯉池

① トンボ類の調査

- ・今回の調査結果は、9科22種であった。6月頃の池の環境は、浮葉植物が少なく開放面が池の半分以上あり、トンボ類の種類と個体数は多く見られた。しかし、7月を過ぎると池の開放面が少なくなり、8月以降はほとんど浮葉植物に覆われてしまう状態になっていた。8月の調査結果は、5科6種と少なく、個体数も少ない状態であった。
- ・6月の調査で、流水系に生息し原始的な特徴を多く残す日本列島特産種であるムカンヤンマを確認捕獲した。地域の人のお話によると、このトンボは根小屋地区に流れている沢に多く観られるとの情報があった。
- ・ハッチョウトンボは、6月から7月の調査で確認・捕獲し、個体数も多く観られた。ハッチョウトンボが生息できる環境が整っている証拠である。



図4-5 ハッチョウトンボ ♂
(トンボ科)

② チョウ類の調査

- ・今回の調査結果は、6科27種であった。6月の調査では、タテハチョウ科のヒョウモン族のチョウ類、特にウラギンヒョウモンが多数確認できた。8～10月の調査では、ウラギンヒョウモンの他に、オオウラギンスジヒョウモンやミドリヒョウモンを多数確認できた。
- ・10月の調査では、夏まであまり確認できなかったアカタテハ、ヒメアカタテハのタテハチョウ科を多数確認できた。
- ・公園内にあるエノキの樹木周辺にゴマダラチョウが多数飛び交っていた。キハダの木には、カラスアゲハ、ミヤマカラスアゲハの♀が産卵にきている姿が見られた。
- ・10月中旬の調査では、園内のフジバカマの花に20頭以上のアサギマダラを確認することができた。根小屋公園は、アサギマダラの渡りの中間点になっているようである。
- ・6月の調査では、樹上性のシジミチョウ（ゼフィルス）を見かけたが、樹上高にいたため種類までは確認できなかった。

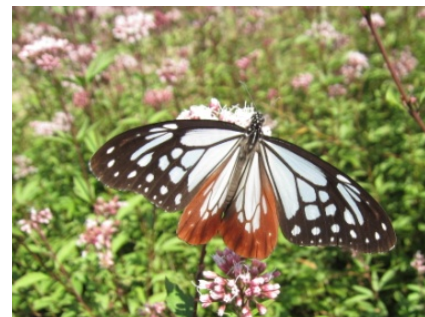


図4-6 アサギマダラ
(タテハチョウ科)

③根小屋道路脇旧養鯉池のトンボ類の調査

- ・今回の調査結果は、6科16種であった。池には浮葉植物のヒシが多く見られるが、大半が開放面で周囲50m位の池である。大型のヤンマ科のトンボが縄張りを持ちながら生息している。
- ・7月の調査で、池の上を優雅に飛んでいるチョウトンボを確認し、8月にかけて個体数も多かった。
- ・9月から10月にかけて、キトンボの個体数が多く見られた。



図4-7 キトンボ
(トンボ科)

(2) 広神地区中家

①トンボ類の調査

- ・今回の調査結果は、8科25種であった。池は周囲80m位の大きな池が2つあり、水生植物は貧相で大半が開放面の池である。大型のヤンマ科のトンボが縄張りを維持しながら生息している。その中にトンボ科の種が出入りし、個体数も多く見られる。
- ・昨年確認していなかったチョウトンボを1頭確認した。

②チョウ類の調査

- ・今回の調査結果は、6科27種であった。調査地にはチョウが飛来し蜜を吸うための花が少ない状態であった。6月から10月にかけて、シジミチョウ科のベニシジミやルリシジミ、セセリチョウ科のダイミョウセセリ等が道端で多数確認できた。
- ・民家周辺の花壇に、夏はアゲハチョウ科のキアゲハ等、秋にはタテハチョウ科のヒメアカタテハ、ルリタテハ等が飛来していた。



図4-8 ミヤマカラスアゲハ
(アゲハチョウ科)

(3) 小出地区原虫野

①トンボ類の調査

- ・今回の調査結果は、8科23種であった。周囲20m位の小さなため池、ヨシやスゲ類と水辺には浮葉植物があり、植物相は安定した状態である。
- ・ハラビロトンボが確認できたのは、このため池だけである。流水系のカワトンボ科アオハダトンボが新たに確認された場所である。
- ・池は小さいが、ヤンマ科の大形トンボ3種類が生息している。



図4-9 ハラビロトンボ
(トンボ科)

②チョウ類の調査

- ・今回の調査結果は、6科15種であった。調査地は、雑木林・湿原・水田の植物相と民家の花壇等が近い環境にある。その中で、ヒョウモン族とタテハチョウ族が多く飛来し、生息している。



図4-10 ウラナミシジミ
(シジミチョウ科)

(4) 湯之谷地区長瀬沢

①トンボ類の調査

- ・今回の調査結果は、4科5種であった。調査地は、深山の麓で止水池は小さな水溜りしかなく、流水系のトンボが主であった。サナエトンボ科ダビトサナエが新たに確認された場所である。



図4-11 キチョウ
(シロチョウ科)

②チョウ類の調査

- ・今回の調査結果は、6科16種であった。林道でありチョウが蜜を吸うことのできる花が少ないこともあって、種類数も同一種数も多くはない。チョウを見つけるのに時間がかかる状態である。
- ・シジミチョウ類は多数見ることができた。

3 調査結果の評価と今後の展望

(1) トンボ類について

- ・今年度、2種類（ダビトサナエ、アオハダトンボ）を新たに確認することができた。これは調査地を増やした成果である。今後は、流水系に生息するトンボを確認するために、沢筋の調査を組み入れながら進めていくことが必要である。
- ・根小屋公園のハッチョウトンボの個体数が多いことは、生息環境が安定していることを示している。また、流水系のムカシヤンマが飛来していることは、近くの生息場所の確認とその環境を調査する価値ある。
- ・公園の「トンボの池」は、水深を少し深くし、浮葉植物の管理を行うことで、大型のトンボであるヤンマ科の生息環境を維持できる。このことは、訪れた人にトンボや自然環境に興味を持たせるきっかけになる。
- ・旧養鯉池にチョウトンボの個体数が多く確認できた。来年以降もチョウトンボの生息状況を調査し、生息が定着しているか確認していきたい。
- ・調査を進めていくと、その池特有に生息する種がある。このことは、その種にとっての生息環境が在ると考えられる。また、その広がり調査しながら、生息環境を調べていく価値はある。
- ・稲刈り時期、田んぼの上を飛び交う赤とんぼの個体数が少なく感じる。来年から、市

内のアキアカネの生息状況を確認し、その実態を明らかにしていきたい。

(2) チョウ類について

- ・今年度から本格的な調査を開始し、6科39種を確認できた。これを基礎として、今後も調査活動を続け、チョウ類の生息状況を明らかにしていきたい。その中で、新潟県準絶滅危惧種に指定されているギフチョウの保護につなげるためにも、市内における生息状況を明らかにすることが必要である。
- ・根小屋公園内で、渡りをするアサギマダラが多く観察されたことは、特記すべきことである。多く観察されたわけは、公園内にフジバカマをはじめとする秋の花がたくさん咲いていることによると思われる。今後、市内の公園管理として、春から秋までの花壇管理によって昆虫たちの生息環境を作り出すことができる。特に秋の花であるフジバカマはチョウにとってよい環境となっている。

6) 参考文献

- ・赤尾文夫 2007年 『野外観察図鑑1 昆虫 改訂版』 旺文社
- ・井上清・谷幸三 2003年 『トンボのすべて 改訂版』 トンボ出版
- ・魚沼市市民課環境対策室 編 2012年 『魚沼市植物相調査 中間報告書
～自然を活かしたまちづくりのための市民参加型調査～』 魚沼市
- ・魚沼市環境課環境対策室 編 2013年 『平成24年度魚沼市自然環境保全調査報告書
～自然を活かしたまちづくりのための市民参加型調査～』 魚沼市
- ・魚沼・小千谷地区理科教育センター 2005年～2012年
『魚沼・小千谷の自然と理科教育』9集・12集・13集・14集
- ・北魚沼地区理科教育センター 1977年～19981年 『北魚の自然と理科教育』第3集・4集・17集・24集
- ・新潟県環境生活部環境企画課 編 2001年 『レッドデータブックにいがた』
新潟県環境生活部環境企画課
- ・日本蝶類研究会 『日本産蝶類リスト[List of Japanese Butterfly]』 <http://choken.net/list/sortdb.cgi>
- ・松香宏隆 2003年 『日本産蝶の全種リスト』 <http://www004.upp.so-net.ne.jp/jamides/jplist/jplist-j.html>

2013年度調査トンボ類目録

合計: 12科39種

No.	科・種名	学名	根小屋	中家	原虫野	長瀬沢
	イトトンボ科					
1	モートンイトトンボ	<i>Mortonagrion selenion</i> (RIS,1916)	○			
2	キイトトンボ	<i>Ceragrion melanurum</i> SELYS,1876	○	○	○	
3	クロイトトンボ	<i>Cercion calamorum calamorum</i> (RIS,1916)	○	○		
4	エゾイトトンボ	<i>Coenagrion lanceolatum</i> (SELYS,1872)	○	○	○	
5	オゼイトトンボ	<i>Coenagrion terue</i> (ASAHINA,1949)	○			
	モノサシトンボ科					
6	モノサシトンボ	<i>Copera annulata</i> (SELYS,1863)	○	○	○	
	アオイトトンボ科					
7	アオイトトンボ	<i>Lestes sponsa</i> (HANSEMANN,1823)	○	○	○	
8	オオアオイトトンボ	<i>Lestes temporalis</i> SELYS,1883		○		
	カワトンボ科					
9	アオハダトンボ	<i>Calopteryx japonica</i> SELYS,1869			○	
10	ハグロトンボ	<i>Calopteryx atrata</i> SELYS,1853		○		
11	カワトンボ	総称※	○			
	ムカシトンボ科					
12	ムカシトンボ	<i>Epiophlebia superstes</i> (SELYS,1889)				○
	ムカシヤンマ科					
13	ムカシヤンマ	<i>Tanypteryx pryeri</i> (SELYS,1889)	○			
	サナエトンボ科					
14	ヤマサナエ	<i>Anisogomphus maacki</i> (SELYS,1872)	○			
	ダビドサナエ	<i>Davidius nanus</i> (SELYS,1869)				○
15	コサナエ	<i>Trigomphus melampus</i> (SELYS,1869)	○			○
	オニヤンマ科					
16	オニヤンマ	<i>Anotogaster sieboldii</i> (SELYS,1854)	○	○	○	○
	ヤンマ科					
17	オオルリボシヤンマ	<i>Aeshna nigroflava</i> MARTIN,1908	○	○	○	
18	クロスジギンヤンマ	<i>Anax nigrofasciatus nigrofasciatus</i> OGUMA,1915	○	○	○	
19	ギンヤンマ	<i>Anax paethenope julius</i> BRAUER,1865	○	○	○	
	エソトンボ科					
20	タカネトンボ	<i>Somatochlora uchidai</i> FORSTER,1897			○	
	ヤマトンボ科					
21	オオヤマトンボ	<i>Epopthalmia elegans</i> (BRAUER,1865)	○	○		
	トンボ科					
22	ハラビロトンボ	<i>Lyriothemis pachygastra</i> (SELYS,1878)			○	
23	シオヤトンボ	<i>Orthetrum japonicum japonicum</i> (UHLER,1858)		○	○	○
24	シオカラトンボ	<i>Orthetrum albistylum speciosum</i> (UHLER,1858)	○	○	○	
25	オオシオカラトンボ	<i>Orthetrum triangulare melania</i> (SELYS,1883)		○	○	
26	ヨツボシトンボ	<i>Libellula quadrimaculata asahinai</i> SCHMIDT,1957	○		○	
27	ハッチョウトンボ	<i>Nannophya pygmaea</i> RAMBUR,1842	○			
28	シヨウジョウトンボ	<i>Crocothemis servilia mariannae</i> KIAUTA,1983	○	○	○	
29	ミヤマアカネ	<i>Sympetrum pedemontanum elatum</i> (SELYS,1872)		○		
30	アキアカネ	<i>Sympetrum frequens</i> (SELYS,1883)	○	○		
31	マユタテアカネ	<i>Sympetrum eroticum eroticum</i> (SELYS,1883)			○	
32	マイコアカネ	<i>Sympetrum kunkeli</i> (SELYS,1884)				
33	ヒメアカネ	<i>Sympetrum parvulum</i> (BARTENEFF,1912)	○	○	○	
34	リスアカネ	<i>Sympetrum risi risi</i> BARTENEFF,1914		○		
35	ノシメトンボ	<i>Sympetrum infuscatum</i> (SELYS,1883)	○	○	○	
36	キトンボ	<i>Sympetrum croceolum</i> (SELYS,1883)	○	○	○	
37	コシアキトンボ	<i>Pseudothemis zonata</i> (BURMEISTER,1839)		○	○	
38	チョウトンボ	<i>Rhyothemis fuliginosa</i> SELYS,1883	○	○	○	
39	ウスバキトンボ	<i>Pantala flavescens</i> (FABRICIUS,1798)	○	○	○	
	確認種数		26種	25種	23種	5種

※カワトンボはニホンカワトンボ *Mnais costalis*、アサヒナカワトンボ *Mnais pruinosa* の2種の総称とした。

2013年度調査蝶類目録

合計：6科39種

No.	科・種名	学名	根小屋	中家	原虫野	長瀬沢	食草
セセリチョウ科							
1	ダイミョウセセリ	<i>Daimio tethys</i>		○			ヤマノイモ科
2	コチャバナセセリ	<i>Thoressa varia</i>	○	○	○	○	タケ類
3	オオチャバナセセリ	<i>Polytremis pellucida</i>	○	○			
4	イチモンジセセリ	<i>Parnara guttata</i>	○	○			イネ科
アゲハチョウ科							
5	アゲハ	<i>Papilio xuthus</i>	○	○			ミカン科
6	キアゲハ	<i>Papilio machaon</i>	○	○			セリ科
7	カラスアゲハ	<i>Papilio bianor</i>	○	○		○	ミカン科
8	ミヤマカラスアゲハ	<i>Papilio maackii</i>	○	○		○	ミカン科
シロチョウ科							
9	キチョウ	<i>Eurema hecabe</i>	○	○		○	マメ科
10	モンキチョウ	<i>Colias erate</i>	○	○	○	○	マメ科
11	スジグロシロチョウ	<i>Pieris melete</i>		○	○	○	アブラナ科
12	モンシロチョウ	<i>Pieris rapae</i>	○	○	○	○	アブラナ科
シジミチョウ科							
13	ベニシジミ	<i>Lycaena phlaeas</i>	○	○	○		タデ科
14	ウラナシジミ	<i>Lampides boeticus</i>	○	○	○		
15	ヤマトシジミ	<i>Pseudozizeeria maha</i>				○	カタバミ科
16	ルリシジミ	<i>Celastrina argiolus</i>	○	○			ハギ類マメ科
17	ツバメシジミ	<i>Everes argiades</i>	○			○	マメ科
18	ミヤマシジミ	<i>Lycaeides argyrognomon</i>				○	マメ科
タテハチョウ科							
19	ウラギンスジヒョウモン	<i>Argyronome laodice</i>			○		
20	オオウラギンスジヒョウモン	<i>Argyronome ruslana</i>	○	○	○		
21	ミドリヒョウモン	<i>Argynnis paphia</i>	○	○		○	スミレ科
22	ウラギンヒョウモン	<i>Fabriciana adippe</i>	○	○	○		スミレ科
23	オオウラギンヒョウモン	<i>Fabriciana nerippe</i>			○		スミレ科
24	ツマグロヒョウモン	<i>Argyreus hyperbius</i>			○		スミレ科
25	イチモンジチョウ	<i>Limenitis camilla</i>	○	○	○	○	スイカズラ科
26	コムスジ	<i>Neptis sappho</i>	○	○			ハギ類マメ科
27	サカハチチョウ	<i>Araschnia burejana</i>				○	イラクサ科
28	キタテハ	<i>Polygonia c-aureum</i>	○	○			アサ科
29	シータテハ	<i>Polygonia c-alubum</i>			○		
30	キベリタテハ	<i>Nymphalis antiopa</i>				○	ヤナギ科 カバノキ科
31	ルリタテハ	<i>Kaniska canace</i>	○	○		○	単子葉植物
32	アカタテハ	<i>Vanessa indica</i>	○	○	○		
33	ヒメアカタテハ	<i>Cynthia cardui</i>	○	○	○		イラクサ科
34	ゴマダラチョウ	<i>Hestina persimilis</i>	○	○			
35	アサギマダラ	<i>Parantica sita</i>	○				ニレ科
ジャノメチョウ科							
36	ヒメウラナミジャノメ	<i>Ypthima argus</i>	○	○			イネ科
37	クロヒカゲ	<i>Lethe diana</i>	○				タケ・ササ類
38	サトキマダラヒカゲ	<i>Neope goschkevitschii</i>				○	
39	ヒメジャノメ	<i>Mycalesis gotama</i>		○			イネ科
確認種数			27種	27種	15種	16種	

表4-1 魚沼市のトンボ相 (2013年度調査結果一覧)

科名	No.	種名	生活型		高地 湿原 種	調査地 2013					備考	
			止水	流水		根小屋レク 都市公園	根小屋旧 養鯉池	広神中家 養鯉池	小出地区 原虫野	湯之谷地 区長瀬沢		参考 銀山平
イトトンボ科	1	モートンイトトンボ	○			○						
	2	キイトトンボ	○			○	○	○	○		○	
	3	クロイトトンボ	○			○	○	○				
	4	オオイトトンボ	○									
	5	エゾイトトンボ	○		☆	○		○	○		○	
	6	オゼイトトンボ	○		☆	○	○				○	
モノサシトンボ科	7	モノサシトンボ	○			○	○	○	○		○	
アオイトトンボ科	8	アオイトトンボ	○		☆	○	○	○	○			
	9	オオアオイトトンボ	○				○					
	10	オツネイトトンボ	○									
	11	ホソミモリトンボ	○									
	12	ホソミオツネイトトンボ	○									
カワトンボ科	13	ミヤマカワトンボ		●								
	14	アオハダトンボ		●					○			
	15	ハグロトンボ		●				○			○	
	16	カワトンボ		●		○					○	
ムカシトンボ科	17	ムカシトンボ		●					○			
ムカシヤンマ科	18	ムカシヤンマ		●		○						
サナエトンボ科	19	ヤマサナエ		●		○						
	20	ダビドサナエ		●						○		
	21	コサナエ	○		☆	○	○			○		
	22	クロサナエ		●								
	23	ヒメクロサナエ		●								
	24	オナガサナエ		●								
	25	コオニヤンマ		●								
オニヤンマ科	26	オニヤンマ		●		○		○確認	○	○		
ヤンマ科	27	コシボソヤンマ		●								
	28	ミルンヤンマ		●								
	29	ルリボシヤンマ	○		☆						○	
	30	オオルリボシヤンマ	○		☆	○	○	○	○		○	
	31	クロスジギンヤンマ	○			○	○	○	○		○	
	32	ギンヤンマ	○			○	○	○	○		○	
	エゾトンボ科	33	オオトラフトンボ	○		☆						
34		カラカネトンボ	○		☆							
35		エゾトンボ	○		☆							
36		オオエゾトンボ	○		☆							
37		タカネトンボ	○		☆				○		○	
ヤマトンボ科		38	コヤマトンボ		●							
	39	オオヤマトンボ	○				○確認	○			○	
トンボ科	40	ハラビロトンボ	○						○			
	41	シオヤトンボ	○					○	○	○		
	42	シオカラトンボ	○			○	○	○	○		○	
	43	オオシオカラトンボ	○					○	○		○	
	44	ヨツボシトンボ	○		☆	○			○		○	
	45	ハッチョウトンボ	○		☆	○						
	46	コフキトンボ	○									
	47	ショウジョウトンボ	○				○		○		○	
	48	ミヤマアカネ		●				○確認				
	49	ナツアカネ	○									
	50	アキアカネ	○			○	○	○			○	
	51	マユタテアカネ	○						○		○	
	52	マイコアカネ	○									
	53	ヒメアカネ	○			○	○	○	○		○	
	54	ムツアカネ	○		寒冷						○	
	55	リスアカネ	○					○				
	56	バシメトンボ	○		寒冷	○	○	○	○		○	
	57	コシメトンボ	○									
	58	ネキトンボ	○									
	59	キトンボ	○			○	○	○	○		○	
	60	コシアキトンボ	○					○	○		○	
	61	カオジロトンボ	○		☆							
	62	ウスバキトンボ	○			○		○	○		○	
	63	チョウトンボ	○				○	○確認	○		○	
	合計						22種	16種	25種	23種	5種	25種

